

皆様の課題をICTで解決する

DAiKO

http://www.daikodenshi.jp

FUJITSU

パートナー

大興電子通信株式会社

# CHIBA UNIVERSITY PRESS

## 聖徳大学

ユニバーシティプレス

大学生記者が編集

# LGBTQ+ 「自分らしさ」とともに

「LGBTQ+」という言葉を目にする機会が増えた。しかし、根強い偏見や差別にさらされ、当事者はいまだ生きづらさを抱えながら暮らしている。私たちは今回、LGBTQ+当事者や、その支援者に取材。真っ直ぐな思いや、苦い経験を知ることができた。誰もが「自分らしく」生きられる社会になるためには何が必要なのか。考えるきっかけの一つになればと思う。

(坂入彩水)

## 言ってくれてありがとう

### わが子へ安心な中学生生活を



LGBTQ+に関する書籍を持つ、沼倉智美さん(写真左)と堀彰人さん(写真右)

「シンケンジャーの赤になつた」  
当時2歳のわが子の言葉に、初めてトランスジェンダーではないかと考えた。体は女の子で生まれたトランスジェンダーの子ともを持つ沼倉智美さん(46)は、当時その言葉を受け入れることができなかった。わが子が「ありのまま」で居られるようにするの

だれもが「自分らしく」生きられるのが多様性を尊重する社会のあり方だ。しかし、そもそもどうすれば自分らしくいられるのか。ノンバイナリージェンダーであり、デザイナー・イラストレーターとして、作品や自らの姿を通して自分の考えや感情などを世界に発信している久喜ようたさん(35)に話をうかがった。

## 諦めより、とことん表現 違う視点で認めやすく

「自分らしさは、自分しか持ってないし、他人がやめるよとか言ってきたりしても、その人は責任取ってくれない。だから続けるべきだと思う」  
「周りの人のおかげで制服の変更ができた」と振り返る沼倉さん。この許可をきっかけに学校側は受け入

自分のことを大事にできない人へのアドバイスを尋ねると、久喜さんはこう答えた。  
また「自分らしさ」に気づいて、諦めることはいつでもできる。だからこそ、「とことんやれば良い」との言葉が胸に刺さった。自分らしさは自分でしか持たないからこそ、自分らしさを持つべきなのだろう。



自身の描いた作品を持つ、久喜ようたさん

### 取材後記

今回の取材を終ほとんどの取材担当者は口をそろえて言った。「LGBTQ+当事者だけでなく、誰もが自分らしく生きることが大事だ」誰もが大切な個性をそれぞれ持っている、それが当たり前のことだと考えるようになった。

## 尊重することが大切

「LGBTQ+当事者に対して、取材前と後でイメージが変わった」と、取材後、変化について調べたいと意欲をみせる者も。取材班は当事者の声を実際に聞くことで、多くの学びを得た。入観を持って人

LGBTQ+当事者は、就活や職場で辛い思いをしている現状がある。LGBTQ+の就職を支援する「JobRainbow」や「セールスCSチーム」の仲島樹さん(24)によると、「就活の場面なら、エントリーシート上の性別記入欄が男女しかないとか、面接の自己PRでLGBT+に関することを中々カミングアウトできないなどがある。就活の場面だけでなく、職場でも差別的な言葉が日常的に使われていると、当事者がストレスを感じることもあるかもしれない。では、当事者にとって働きやすい環境にしていくにはどうすればいいか。同社タイバースティコンсалタントの元信弘さん(24)は



LGBT就職を支援するJobRainbowのメンバー

## 就活、働きやすい環境へ 企業の理解と発信姿勢重要

「入社しやすいかで考えると、人事の方がLGBT+に理解があるかどうかを当事者は見ていると思う。人事の方の言動からLGBT+への理解度は判断されており、当事者の入社のしやすさ」に直結するポイントと述べる。LGBT+の理解者がいる他に、入社してからも、社内報などで性の多様性をはじめとした多様な人について発信していることが安心する材料の一つになる。

千葉市ではLGBTQ+に関するさまざまな取り組みを行っている。2018年に『LGBT+を支援するためのガイドライン』を作製した。市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課の柴崎準也

## パートナーシップやLINE、電話相談も 千葉市の取り組みいろいろ

して人と関わるのが大切と考える。「見える外見」ばかり見るとはならず、「その人らしさ」を見つけてあげることが大切ではないだろうか。

(坂入彩水)

さん(39)は「皆さんに正しい知識を身に付けていただくことが大切であるため、市民や民間企業の方にも参加して頂きたいと考えています」と呼びかける。19年には同性・異性を問わず、互いを人生のパートナーとする宣誓を証明するパートナーシップ宣誓制度を導入した。また、LINEや電話のLGBT+専門相談窓口も設けている。

(大井菜由、中村百合菜)

